

JICA中国 PROFILE

独立行政法人 国際協力機構
中国センター



理事長メッセージ

2019年5月、「令和」への改元により新しい時代を迎えました。JICAも2018年10月、日本の政府開発援助(ODA)の実施を一元的に担う「新JICA」に移行してから10年の節目を迎えました。役職員一同、適切に業務を執行し関係の皆様の期待に応えられるよう、新たな決意で日々の業務に取り組んでおります。

JICAは、開発協力大綱に定められた「人間の安全保障」と「質の高い成長」の実現を組織のミッションとしています。「人間の安全保障」は、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」が目指す「誰一人取り残さない」世界と軌を一にするものですが、初めて提唱されてから25年以上の間に生じた国際社会の変化を踏まえて、今日的な課題や脅威に即した取組みを強化しています。

JICAは、様々なパートナーと連携し、開発途上国の課題の解決に取り組んでいます。高い技術力やノウハウを持った企業の海外展開を後押しするため、昨年、民間企業の提案に対応する複数の事業を「中小企業・SDGsビジネス支援事業」として整理・統合するとともに、体制も含め、民間連携の取組強化を図っています。民間企業のみならず、地方自治体、大学・研究機関、非政府機関、協同組合など様々なパートナーとの協働は、開発途上国の課題の解決と同時に日本国内の発展にもつながるものと期待しています。例えば、開発途上国から来日する方々に対する日本各地の特色を活かした研修機会の提供は、地元の強みの再認識や活性化の一助となっています。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けては、スポーツの持つ力を国際協力に活かすとともに、開発途上国とホストタウンのマッチング・関係強化や、人的交流を通じた地域における国際理解の促進などに貢献していきます。また、外国人材受入に関連して、母国における渡航前の研修の実施や、開発途上国と日本の地方との協力関係の構築・発展に向けた取組みを開始しています。

2018年に始動した「JICA開発大学院連携」では、年間1,000人を目標に、母国の発展を支えるリーダーとなる人材を開発途上国から日本の大学院に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と戦後のドナーとしての知見を学ぶ機会を大学と連携して提供しています。連携大学での各専門分野でのプログラムに加えて、明治維新以降の日本の近代化の経験と歴史をテーマとする日本理解プログラムも受講できるようにしています。

不安定な国際情勢の中で、JICAは、開発途上国の平和構築の支援とともに、2016年7月に発生したバングラデシュ・ダッカにおけるテロ事件を踏まえ、事業関係者の安全を第一に、安全対策の不断の見直しと改善に、引き続き取り組んでまいります。

2019年は、G20大阪サミットや第7回アフリカ開発会議(TICAD7)など、日本が国際社会においてイニシアティブを発揮する重要な年です。国際社会の期待に応えて、日本の経験や知見を活用し、世界の様々な課題解決や発展に貢献することは、日本に対する信頼感の醸成につながります。JICAは、「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、国内外の幅広いパートナーとともに、国際協力を推進してまいります。

目次

中国地方を元気にする国際協力を目指して…	3
研修員受入事業……………	4
JICAボランティア事業……………	5
草の根技術協力事業……………	6
中小企業・SDGsビジネス支援事業……………	7
開発教育支援事業……………	8
フロアガイド……………	9

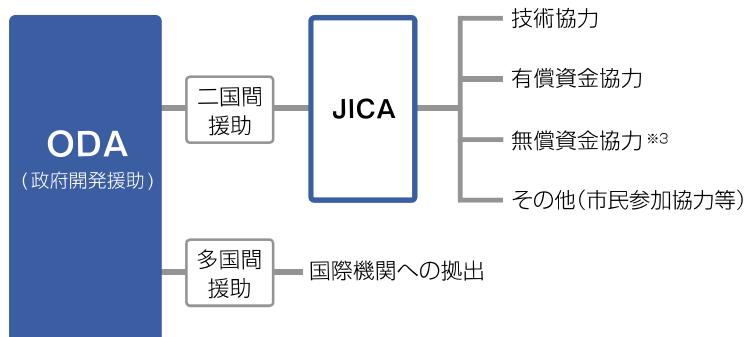


国際協力機構理事長 (JICA)
理事長 北岡 伸一

ODAとJICA

日本は、1954年にコロンボ・プラン^{*1}に加盟して以来、「国際社会の平和と安定及び繁栄の確保により一層積極的に貢献すること^{*2}」を目的に、政府開発援助(ODA: Official Development Assistance)として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」^{*3}を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約90カ所にのぼる海外拠点を窓口として、世界154の国・地域で事業を展開しています。



*1 コロンボ・プラン：南アジア、東南アジア、太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。

*2 2015年2月策定「開発協力大綱」より。

*3 機動的な実施の確保その他外交政策の遂行上の必要に基づき、外務大臣が自ら行うものとして指定する無償資金協力を除く。

JICAの国内拠点の役割

JICAは、東京の本部に加え、各地域に国内拠点を設置しています。

国内拠点は、JICAの国際協力の重要な現場です。開発途上国から来日する研修員に我が国の経験・技術を学ぶ機会を提供したり、ボランティアの訓練を実施することを主な目的としていますが、地域の人々との交流を深める場にもなっています。また、JICA事業や国際協力に関する情報を提供したり、グローバル人材の育成支援、自治体やNGO、大学、民間企業などと連携した国際協力事業を幅広く推進しています。

国内拠点は、開発途上国と日本の各地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を活かした国際協力を推進するとともに、国際協力を通じて地域の発展にも貢献する活動を進めています。

国内拠点・地球ひろば

- ① JICA北海道
- ② JICA東北
- ③ JICA二本松
- ④ JICA筑波
- ⑤ JICA東京
- ⑥ JICA地球ひろば
- ⑦ JICA横浜
- ⑧ JICA駒ヶ根

- ⑨ JICA北陸
- ⑩ JICA中部／なごや地球ひろば
- ⑪ JICA関西
- ⑫ JICA中国
- ⑬ JICA四国
- ⑭ JICA九州
- ⑮ JICA沖縄

- ⑨ JICA北陸
- ⑩ JICA中部／なごや地球ひろば
- ⑪ JICA関西
- ⑫ JICA中国
- ⑬ JICA四国
- ⑭ JICA九州
- ⑮ JICA沖縄



地域から世界へ、世界から地域へ

中国地方を元気にする国際協力を目指して

JICAは日本の政府開発援助(ODA)の実施機関として1974年に設立され、中国地方においては、JICA中国を拠点に中国5県で事業を展開しています。中核である研修員受入事業では、これまでに開発途上国の行政官等11,000名以上が中国地方を訪問しました。一方、JICA海外協力隊として3,300名以上の日本人が中国5県から派遣されています。

設立以来、開発途上国への国際協力を推進するというJICA役割は変わりませんが、JICAの国内でのパートナーは大きく変化しました。

開発途上国が抱える問題は多岐にわたります。その解決のヒントは思わぬところに存在し、今日では国際協力の経験に関わらず、"ヒント"を有する多くの地方自治体や大学、民間企業が、様々な形でJICAの事業に参加しています。

例えば、少子高齢化や人口減といった、今の日本社会が直面する課題への取り組みからも、研修員は関係者との対話を通じて多くの学びを得ています。彼らの視点に立てば、中国地方には役立つ経験、技術、製品などがまだまだ多く埋もれています。

JICA中国は、中国地方で培われてきた知識や技術、人材を開発途上国の問題解決に活かすための橋渡し役ですが、その橋は日本から開発途上国への一方通行ではありません。活力にあふれる開発途上国との新たな交流が、私たちの好奇心や創造力を刺激します。JICA中国は、国際協力を通じて、民間企業の海外展開や地域活性化にも貢献できると考えています。

関心を持たれた方は、どうぞお気軽にJICA中国の扉を叩いて下さい。

JICA中国 所長



岡山からアフリカへ！民間企業の挑戦とSDGs

JICAは、日本の知恵と経験を活かしながら、
SDGsの達成に貢献します。
SDGs(持続可能な開発目標)とJICA(HP)



SDGsってなに？－2030年の山陰を語ろう－



中国地方の経験から学ぶ「平和」と「技術」 研修員受入事業

課題別研修 「アフリカ地域初等理数科教授法改善」 授業実践風景

中国5県の経験と技術が、途上国発展のヒント

JICA中国では、人類初の原爆投下から復興した広島の経験、各県の大学が得意とする教育、乾燥地農業といった研究分野、中山間地・離島における地方創生の取り組みなど、この地域が有する強みや課題克服に向けた活動を途上国への開発に繋げる研修事業を展開しています。約140か国の開発途上国から、年間約50コース/500人の政府を代表する行政官、NGO、民間団体職員などをJICA研修員として中国地方に招き、これまで11,000人以上を受け入れてきました。研修期間中、研修員は中国5県の行政、民間団体・企業や研究・教育機関から「知の蓄積」を学ぶとともに、原爆の実相と復興を共有する平和研修や日本文化体験といった交流プログラムを通じ、中国地方から日本の歴史、社会、文化も学びます。

JICAの研修で学んだ、真の「平和」の価値

先進国・日本も、かつては戦禍にあったそうですが、努力して「平和」を取り戻しました。帰国後は日本で集めた「平和」に関する情報を母国の人々に紹介し、研修で学んだ知識を活用して、業務の改善を図りたいと思います。そしていつか、私の国も「平和」な国と呼べるよう、また日本のように美しく、清潔で緑豊かな国になるよう、努力したいとおもいます。



▲「都市上水道維持管理」コースにて、温井ダムを視察する研修員



▲航空基地にて機動救難士から資器材の説明を受ける「海上保安政策プログラム」コース研修員



▲復興と平和構築への取り組みを学ぶため、広島平和記念資料館・公園を訪問した研修員



いつか世界を変える力になる。 JICAボランティア事業

▲先天性内反尖足の患者に、足のストレッチを実施している様子(スーダン/理学療法士)

一步踏み出したその先にある、世界の人々とのつながり

JICA海外協力隊として世界で活動してきた中国地方出身者は、これまで3,300人以上に及びます。自分の持つ技術や経験を活かして国際貢献を志す方達が、開発途上国で現地の人々と共に改善に取り組んでいます。日本とは異なる気候風土、価値観、文化、組織の中で活動することにより、コミュニケーション力、適応力なども身につけていきます。

JICA海外協力隊の目的の一つは、帰国後、身に付けた経験・能力を日本社会に還元すること。グローバル化が進む現在、中国地方でも自治体や民間企業などでJICA海外協力隊経験者が活躍しています。

「できることは必ずある。」一步踏み出して、世界も自分も変えてみませんか。

ヨルダンでの経験を、青少年教育に活かす

ヨルダンでは、シリア難民のためのユースセンターでスポーツや工作などの活動を通じた子どもたちの居場所づくりのお手伝いをしていました。現在は、広島県江田島市にある青少年育成施設で自然体験活動の提供や指導者の養成を行っています。利用者のニーズが多様化する中、時代にあわせ施設の在り方も変化してきています。ヨルダンで培った、従来の考え方には捉われず、多角的に物事を捉えようとする経験が、役に立っていると感じています。



望月奏さん
ヨルダン/青少年活動



▲現地の公立中高等学校にて、生徒の数学理解力向上に取り組む青年海外協力隊員(サモア/数学教育)



▲民芸品の販路拡大に取り組む。日頃から住民との対話は欠かせない(ケニア/コミュニティ開発)



▲日系ブラジル人の少年に野球の技術指導を行う日系社会青年海外協力隊員(ブラジル/野球)



©CPWJ

地域の技術や経験を途上国の発展に 草の根技術協力事業

特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパンによるネパール「シンドゥパルチョーク郡農家のグループ化による営農改善と日本の過疎地域の経験を活用した生計向上事業」

「ほっとけない」あなたの熱意が途上国と日本を元気にします

草の根技術協力事業は、日本のNGO、地方自治体、大学、民間企業等の団体が、蓄積した知見や経験に基づいて提案する国際協力活動を、JICAと団体の協力関係のもとに実施する共同事業です。

教育、平和構築、保健医療・福祉、農業などの分野で、中国地方の提案団体の特性を生かした活動を開発途上国で展開、現地での技術指導のための日本人専門家派遣や関係者を日本に招いての研修を実施しています。活動を通じて、地域の活性化や国際化を促す機会となることも期待されます。

草の根技術協力は、「開発途上国の未来のために」という皆さんの熱い思いが出発点です。これまで培ってきた技術や経験を、開発途上国の人々のために役立ててみませんか。

健やかな体と豊かな心を育むために

浜田市世界こども美術館では、2017年から草の根技術協力事業を活用して、ブータンの美術教育支援を行っています。ブータンの小学校で美術が導入されたのは、2013年。画材も入手しにくく授業実践が進まないブータンで、廃材や自然素材などを活用し、表現することの面白さを伝えています。合言葉は「発想次第で様々な表現を生み出すことができる!」。ブータン王立教育委員会と共に“創意工夫すること”で変化を生みだそうとしています。



高野訓子さん
(浜田市世界こども
美術館)



▲特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドによるカンボジア「中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」(写真:石川正頼)



▲岡山県吉備中央町と社会福祉法人ももたろう会によるフィリピン「タルラック州カバパス町における高齢者介護予防の普及および体制構築事業」



▲島根県と公益財団法人しまね国際センターによるブラジル「サンパウロ州カサバーバ市における環境教育推進事業」



～日本の技術 世界を変える～ 企業の海外展開をサポート 中小企業・SDGsビジネス支援事業

「モロッコにて土壤改良材活用による節水型農業の普及」(株式会社鳥取再資源化研究所／鳥取県東伯郡)

中国地方から途上国ビジネスの舞台へ

瀬戸内側の山陽と日本海側の山陰。気候も風土も地場産業も異なる中国地方には、基幹産業や伝統産業を長年支えてきた高度な技術力を持つものづくり企業、その技術力と豊富な地域資源を活かして新たな分野を目指すオーナー企業が多くあります。

途上国に進出したい企業と日本の技術を必要とする途上国。JICAは長年ODAで培った途上国政府とのネットワークや情報で、企業と途上国の仲介役として、企業の海外展開のお手伝いをします。

JICAは企業が事業の実施可能性を調査する際にステップに応じた様々な支援メニューをご用意しています。途上国はその技術を必要としています。中国地方から途上国でのビジネスを目指しませんか。

ミャンマー内陸水運の発展のために

ミャンマーの物流は非効率で長距離輸送に対応できないという問題に対し、創業以来最優先にしてきた安全で高品質な物流事業の知見を活用して、現地企業の物流品質底上げに寄与する技術移転・教育を提供しています。物流品質向上を通じて、国内外から長距離輸送を伴うミャンマーでの事業環境の改善に貢献します。



松川慎さん
(株式会社エムケー代表取締役・写真前列右)
JICA支援で「基礎調査」を実施



▲「スーダンにてタマネギ乾燥加工ビジネスで収入向上を」(大紀産業株式会社／岡山県岡山市)



▲「モロッコの現地農家へ土壤改良材を導入」(株式会社鳥取再資源化研究所／鳥取県東伯郡)



▲「ミャンマーの現地合弁会社にて物流品質向上を目指した技術教育」(株式会社エムケー／広島県東広島市)



世界はあなたにつながっている！その一歩が世界を変える 開発教育支援事業

地球規模で考え、地域で行動する。今、自分にできること。

グローバル化が進む現在、私たちは地球のどこにいても、自らの足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える問題に取り組むことが急務となっています。

また、教育現場では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童・生徒が互いの文化を理解し、尊重し、違いを認め合うなど、新たな社会で生きていくために必要な資質や能力を育むことが求められています。

開発教育支援事業では、児童・生徒や教員の方々が、世界の問題や国際協力について知り、考え、行動に移すきっかけとなるためのプログラムを提供しています。

持続可能な社会のために教員ができること

教師海外研修で途上国の現状を知り、経験したことのない衝撃とジレンマを感じました。帰国後も継続的に世界の問題について考える為にネットワークを立ち上げ、定期的に勉強会を開催しています。また、学校では高校生と共に何ができるのかを模索し、日々活動しています。生徒も参加してカンボジアでボランティアも実現しました。

持続可能な世界の実現の為には、みんなの努力が必要だと伝えていくことは私の責務だと考えています。



尾山 誉教諭
(岡山県共生高等学校)



▲授業の実践例や参加型手法を伝え、国際教育の取組みに役立ててもらう「国際教育研修会」



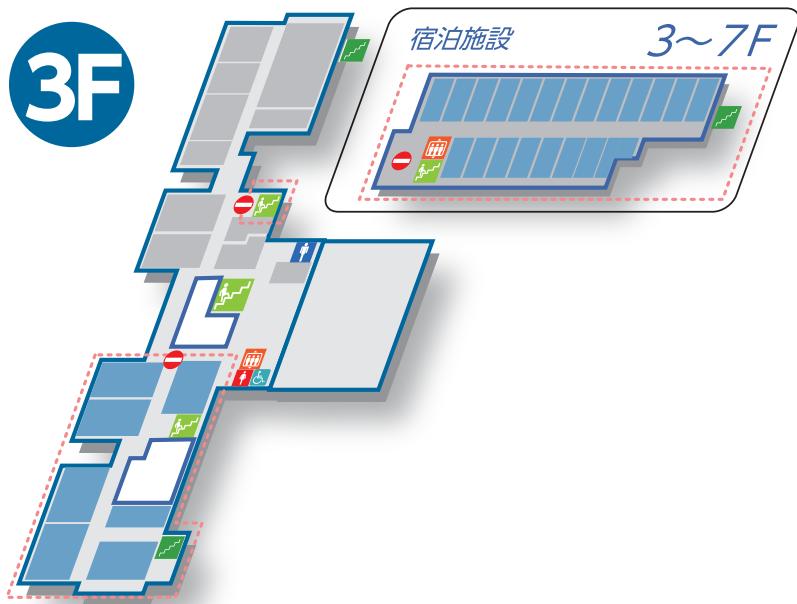
▲途上国での生活やボランティア体験を学校現場に「出前」し、異文化の空気を感じてもらう「国際協力出前講座」



▲JICA中国を訪問し、途上国のかわいらしい、世界の問題、国際協力について学ぶ「JICA中国施設訪問『国際理解教室』」

フロアガイド

3F



情報センター / 図書館



開室時間

【平日】10:30～12:30、13:30～19:00

【土・祝】10:30～19:00

※日曜日・年末年始休室

その他、臨時休室することがあります

JICA プラザ

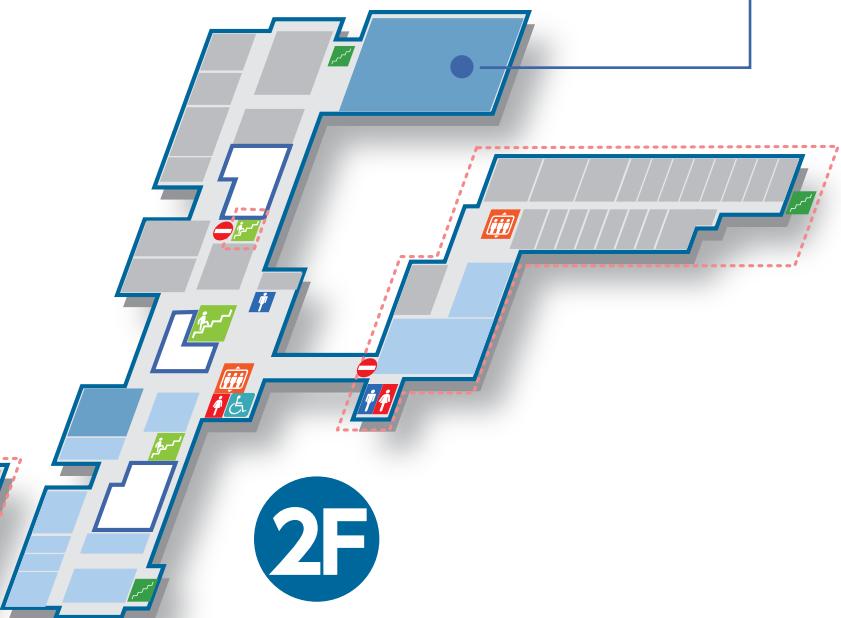


開館時間

平日 9:30～17:45

※土曜日・日曜日・祝日休館

2F



1F



レストラン「ラコルト」



営業時間

【ランチ】12:00～13:30（ラストオーダー 13:00）

【ディナー】18:00～20:00（ラストオーダー 19:30）

※年中無休（年末年始を除く）

「ひろしま国際プラザ」は、独立行政法人国際協力機構中国国際センター（JICA中国）と広島県立広島国際協力センターとが一体化した複合施設です。プラザは、世界各国から様々な人々が乗り合わせる「平和と友好の船」をイメージして建てられました。より多くの方々にご利用いただき、行き交う各国の研修員と気軽に言葉を交わしていただけるような場作りを目指しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



JICA中国 独立行政法人 国際協力機構 中国センター

〒739-0046
広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内

○総務課 TEL:082-421-6300
○研修業務課 TEL:082-421-6310
○市民参加協力課 TEL:082-421-6305

FAXは共通 FAX:082-420-8082



【JR西条駅から】

- ◆無料シャトルバス
西条駅前【6番のりば】

- ◆中国JRバス
黒瀬・広・呉方面行き【7番のりば】
(水源池前下車 徒歩約10分)
サイエンスパーク行き【7番のりば】
(サイエンス北下車 徒歩約3分)

- ◆タクシー 約15分

【新幹線東広島駅から】

- ◆タクシー 約10分

【広島空港から】

- ◆芸陽バス 白市方面行き JR白市駅下車
↓〈JRに乗り換える〉
JR山陽本線 広島方面行き 西条駅下車

【自動車】

- ◆山陽自動車道
西条ICから 国道375号を呉方面へ約15分



中国5県のJICA窓口

あなたに一番近いJICA窓口です。開発途上国で活躍した経験を持つ国際協力推進員が、各地域のJICAデスクで、皆さんのお越しをお待ちしています。



JICA中国 独立行政法人 国際協力機構 中国センター

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL:082-421-6300(代) FAX:082-420-8082

JICA中国

検索

ウェブサイト

Facebook

<https://www.jica.go.jp/chugoku/>

<https://www.facebook.com/jicachugoku>

2019年10月